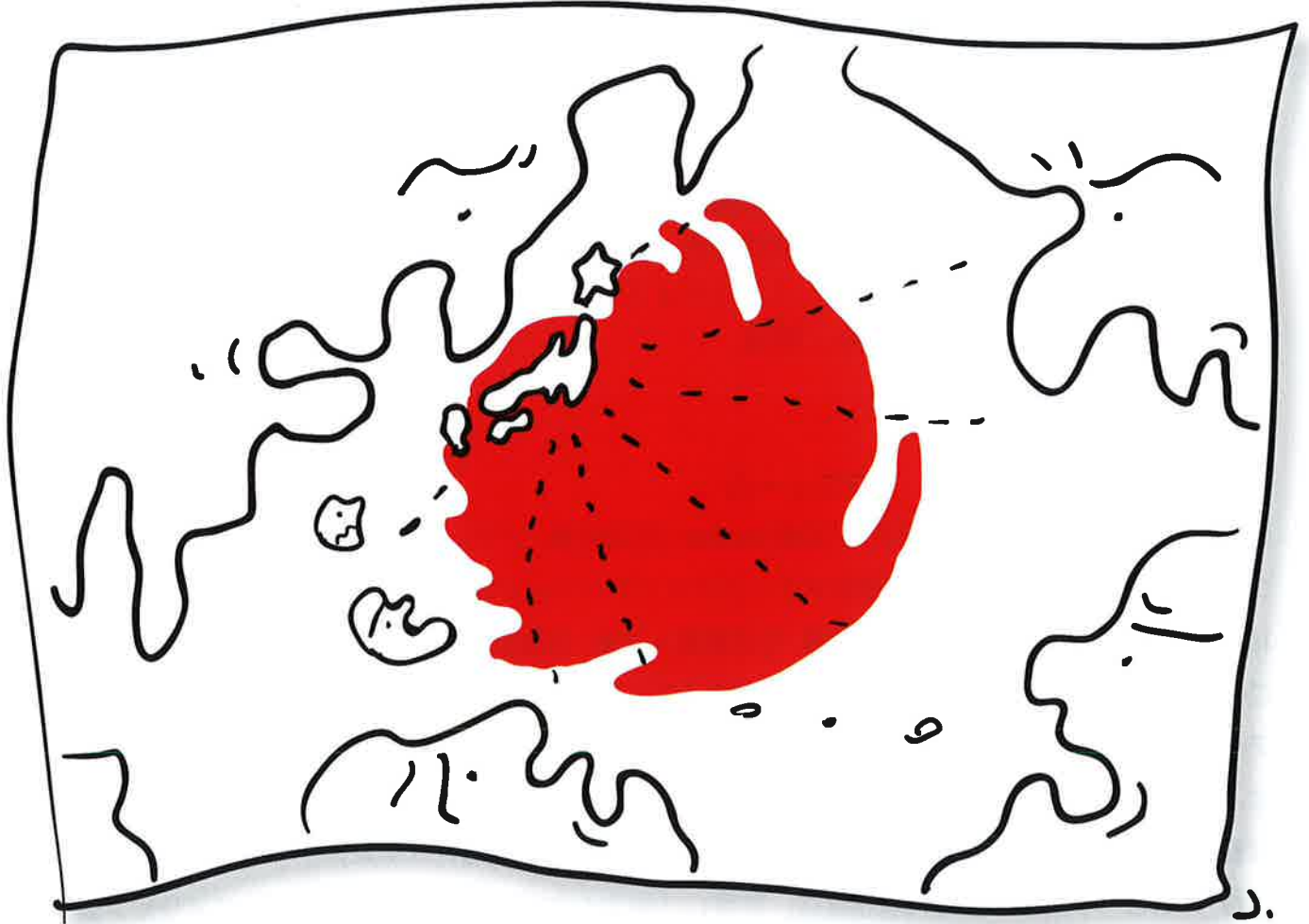


# 今、世界から日本は どう見えているのか？

福島原発事故を世界の視点で考える



基調講演：土田 修氏 (ジャーナリスト)  
「福島を知ろう ～世界から見た日本の現状～」

現状報告：古山嘉三氏 (元東京電力協力会社社員)

2012  
**10/6 (土)**

14:00 開演 (13:30 開場)

会場：サンシップとやま 1F ホール  
富山市安住町 5-21

参加費：1,000 円

主催：NGO・NPO ネットワークとやま

# NNT フォーラム「世界から見た日本の現状」

危機的、絶望的な思いと不安を抱きながら、福島に限らず、全国の国民が、原発事故の真実とこれからの国の指針に注目しています。正しい情報が最優先されるべきなのですが、わが国において果たして真実が正しく伝えられているのでしょうか。世界は日本をどのように見ているのでしょうか。

今回のフォーラムでは、多くの方々と共に原発事故の真実と情報のあり方、世界の一員としてのわが国の責任について学び、考えていきたいと思えます。ぜひともご参加ください。

## ■プログラム

13：30 / 開場

14：00 / 開演

／基調講演…土田 修氏

15：20 / 現状報告…古山嘉三氏

15：50 / パネルディスカッション・質疑応答

16：30 / 閉会

## ■基調講演：土田 修氏 プロフィール

東京新聞編集委員、調査報道NPO「共働 e-news」共同代表、フランスの国際月刊紙「ル・モンド・ディプロマティーク」日本語版代表、日本マス・コミュニケーション学会会員。

1954年金沢市生まれ、名古屋大学卒業。中日新聞入社後、北陸報道部、東京・名古屋社会部などを歴任。この間、コミュニティレストラン、独立系市民メディア、日韓住民自治などNGO・NPO・市民活動をテーマに取材する一方、自ら「マスメディアとNPOとの協働」をめざした市民活動を続けている。最近では、市民の自主的・自発的参加や行動を促進する「公共するジャーナリズム」の実践に力を注いでいる。著書は「挑戦する酒蔵～本物の日本酒をもとめて」（農文協刊、共著）、「マスメディア再生への戦略～NPO・NGO・市民との協働」（明石書店、共著）、「南海の真珠カモテス～元学徒兵のフィリピン医療奉仕」（邂逅社）、「米国調査報道NPO～公共するジャーナリズムの可能性」（緑風出版、近刊）など。

## ■現状報告：古山嘉三氏 プロフィール

東京電力協力会社（東京エネシス）社員として30年近く、福島原子力発電所管理区域内の作業従事者に対する放射能・放射線管理教育担当者として勤務。震災時には4号機内で勤務中だった。事の重大さを知る故に、すぐに大熊町より家族で避難した。辛うじて大惨事を免れた奇跡とも言える建屋内の出来事を知る数少ない人物の一人。人間の能力を超えた言わば「パンドラの箱」を開けてしまったと語る。現在、福島から富山に避難している。

お問い合わせ

NGO・NPO ネットワークとやま事務局 富山 YMCA Tel 076-425-9001